



巻頭言 : 節目となる第50号発刊

野村, 昌孝

(Citation)

海事博物館研究年報, 50:0-0

(Issue Date)

2023-03-31

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100482204>



巻 頭 言

節目となる第50号発刊

海事博物館 館長 野村 昌 孝



神戸商船大学海事資料館に文部省より施設経常費が交付されるようになって機関誌を発行し、そのときどきの館の名前を冠した誌名を引継ぎ、今号で第50号を迎えることになりました。このように時に前館長の定年退職に伴って海事博物館長を引き継ぎ、節目となる年報の発刊にこぎつけることができましたことは館長として安堵とともに大きな慶びであります。

前身である神戸高等商船学校には数多くの海事資料がありましたが、戦災で焼失したことから出身者や関係先に呼びかけては品々を集めた記念室を作ることから始まり、昭和33年11月に海事参考館が誕生。15年あまり後の昭和49年3月に海事資料館年報が発行されています。十年一昔とよく言いましたが、昨今は世の中の移り変わりが激しく10年経たずとも一昔の感が強くなり、海事博物館をとりまく環境もずいぶん変わってきています。ただ、その間も地道に資料の蒐収、海事情報の展示・発信を続けることで海事博物館の知名度を高める活動が続けられています。

2019年末からの新型コロナウイルス感染症の流行の間も閉館や少人数開館を実施しながら運営を続けてきた当館ですが、政府から新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが「5類」に移行する方針が示されアフターコロナに向けた動きが進む中、Withコロナの時世となり、様々な活動の復活と発展の時期にある世の中と同様、新たに「花毛布」の常設展示を行うことになりました。海に関心をもつ小学生から一般の方々にとりまして魅力的で、訪問しやすく、また、多くの皆様と連携の深まる活動展開ができるよう精励していく所存です。

海事博物館の顧問、専門員、特別専門員、日本船舶海洋工学会関西支部の造船資料保存グループのみなさまには当館の運営に多大なる尽力を賜っております。関係みなさまのご支援の下に当館は運営することができております。今後も海事関連資料の整理と充実を図りながら、より身近な海事博物館となるよう努めてまいります。今後も当館の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学位記授与式での花毛布による“祝”飾り
海事博物館エントランスホール
令和5年3月24日



深江丸 (IV) 模型 <縮尺1/40>
平成24年4月 田中敏一氏寄贈